

令和7年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業



- ①藻場・干潟の保全・再生・創出と②地域資源の利活用による好循環、さらに③多様な主体者との連携※を実行する「令和の里海づくり」の実現に向け、令和7年度～9年度の3カ年事業として、**8団体を選定**。
※「今後の里海づくりのあり方に関する提言」で示した理念と指針の3項目。
- 地域が実施する**計画策定と事業実施を資金的・技術的に伴走支援**し、共に成果を創出。
- ネイチャーポジティブ、ブルーカーボン、森里川海の連環の再生といった**複数分野への統合的なアプローチ**を目指し、水産業や海洋教育、沿岸域の総合的管理（ICM）へも貢献。

【対象事業】※令和7年は最大600万円/1団体で最大3年間の事業期間。モデル事業に加え、アドバイザー派遣、マッチングの場の提供、研修等の育成プログラム など複数の支援プログラムを実施

- ・ 自然環境や藻場・干潟等の保全・再生・創出に資する活動
- ・ 希少種に限らず沿岸の生態系の保護やモニタリング、データベース化
- ・ 自然や藻場干潟等の保全・再生等活動を体験できる観光コンテンツの創出
- ・ 人材育成に向けた海洋教育の単元開発、地域の学校等への教材提供
- ・ シンポジウムやワークショップの開催等、啓発、プロモーション
- ・ 関係省庁の施策との連携
- ・ 被災地としての復興
- ・ 上記を実施するための協議会等の設置や他団体等との連携、枠組みづくり

藻場・干潟の 保全・再生・創出

藻場の保護活動

調査・研究と基礎情報の蓄積

自然環境のモニタリング

市民科学を通じたリテラシー向上と
教育・研究との連携

地域資源の利活用 による好循環

未利用・低利用魚を使っ
たメニュー開発

環境に配慮した持続可能な
観光商材の開発

多様な主体の連携

海に親しむ学びに始まる海洋
教育の実践

地域内外の関係者と連携

沿岸域の**良好な環境の創出**に取り組み、
地域課題の解決・**ウェルビーイング**の実現へ！

令和7年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業 選定団体



	団体名（活動場所）	事業名	実施内容（概要）	創出したい成果
1	NPO法人環境生態工学研究所 (E-TEC) (宮城県宮城郡松島町)	松島里海バスケット	コンソーシアム設立、枠組み作り、 環境保全・教育普及の拠点づくり	「里海」×「連携」×「学びの拠点化」 NPOがコーディネーターの役割を果たし、将来的な教育普及等の拠点化も視野に、地域一体的な里海づくりを実現。
2	一般社団法人 東松島みらいとし機構(HOPE) (宮城県東松島市)	東松島BLUE LANDプロジェクト	海底の底質改善による藻場再生、 多様な主体者との連携、海洋教育	「里海」×「地域循環共生圏」×「水産業」 東日本大震災により変化した海洋生態系において、地域循環共生圏の理念を踏まえ里海づくりに取り組む。
3	和倉温泉創造的復興まちづくり 推進協議会 (石川県七尾市)	和倉温泉からめぐる 七尾湾里海再生プロジェクト	震災復興、観光活用、地域づくり、 藻場のモニタリングと保全	「里海」×「災害復興」×「観光」 災害からの復興において、観光を成り立たせている地域資源の里山・里海の保全と観光の融合により、持続可能性の確立を目指す。
4	国立大学法人三重大学 (三重県鳥羽市)	日本の里海 ～三重県鳥羽市における地域 資源としての自然環境・共生文化・ 生物多様性利活用モデル実証事業～	研究・教育拠点（アライアンス協定 に基づく）及び漁観連携、漁業や 海女文化の継承と観光、藻場保全 やモニタリング	「里海」×「海女文化」×「モニタリング」 地域の実施主体を地方大学がサポートし、地域文化や自然環境、漁業と観光の連携促進、自治体の施策にコミットし、豊かな海の持続的利用のあり方を模索。
5	貝塚里海づくり未来協議会 (大阪府貝塚市)	二色の浜海岸地域における 持続的な生態系の保全と里海 ネットワーク構築事業	アマモ場・干潟のモニタリング、観察 会等の海洋教育推進、地域のネット ワークづくり	「里海」×「博学官連携」×「地域・民間参画」 大阪湾北限のアマモ場の保全・利活用に向けて、社会教育施設が地域連携による里海づくりのハブとなり取組の活性化を目指す。
6	尾道東部漁業協同組合 (広島県尾道市)	松永湾の再生・利活用に向けた 新たな里海創生プロジェクト	干潟環境の改善、アサリ再生、藻 場再生、エコツアー、モニタリング、地 域づくり	「里海」×「漁業振興」×「科学的根拠」 持続可能な活動に向けて科学的知見を積み上げ、漁協・自治体・地銀・企業の協働・地域連携の取組を設計。
7	一般社団法人ふくおかFUN (福岡県福岡市)	博多湾から始める 沿岸と流域が繋ぐ人の営みと自然調和	市民科学、モニタリング、海洋教育、 自治体や企業・管理者を巻き込んだ ネイチャーポジティブに向けた地域 づくり	「里海」×「市民科学」×「伝承」 日々の潜水調査で得る発見を核に、漁業者、港湾管理者、科学者、市民とともに自然と人の営みの調和した海を育む市民科学を醸成し後世に伝承する。
8	肥後銀行 公益財団法人 肥後の水とみどりの 愛護基金 (熊本県葦北郡芦北町、天草市)	八代海等沿岸域における産官 学民金連携によるアマモ場再生 及び利活用による里海づくり事業 ～未来に続く里海を目指して～	高校生との連携による森里川海連 環の取組による地下水とアマモ場等 の保全・再生、伝統漁法（うたせ 船）観光のエコツーリズム化による 存続	「里海」×「産官学民金」×「産業振興」 陸域での地下水保全活動の経験を活かし、地銀及び公益財団が地域の調整役の主体者になり産官学民金が連携し、森里川海の連環する里海づくりを実現。

※ 事業実施に際して、事業名や事業内容は一部変更される可能性があります。

(参考) 里海づくりの推進スケジュール (予定)

2025年4月25日時点



実施内容	2024年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
今後の里海づくりのあり方に関する提言	公表 ●			
戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業		提言1～3の具現化 ● 実施団体の選定(今回)	・保全再生創出の実現 ・利活用・連携の具体化 による持続可能な取組を創出	
里海づくりの手引きの改訂		知見投入 提言1～3をサポート ● 公表 ● 活用	取組の底上げ(ボトムアップ) ↑	
里海づくりの情報共有の場の設置		地域の取組の推進 ● 上半期中に設置		
関係省庁・関係団体の連携強化		地域の取組の推進 ● 連携強化		
地域の里海づくりのPR等		地域の取組の推進 ● 観光事業と連携 強化策を年度中に試行的に実施	試行結果を踏まえて実装	

2030年を暫定的な目標年度と設定
(基盤構築支援事業の第2ターム終了年)